

# 八王子未来デザイン2040に基づく 地域づくりの推進について

総合経営部 経営計画課 地域づくり担当

## まちの変遷

八王子市が誕生したとき、面積は7.3 km<sup>2</sup>、人口は約4万2千人でした。その後、町村合併を経て、今のまちになりました。

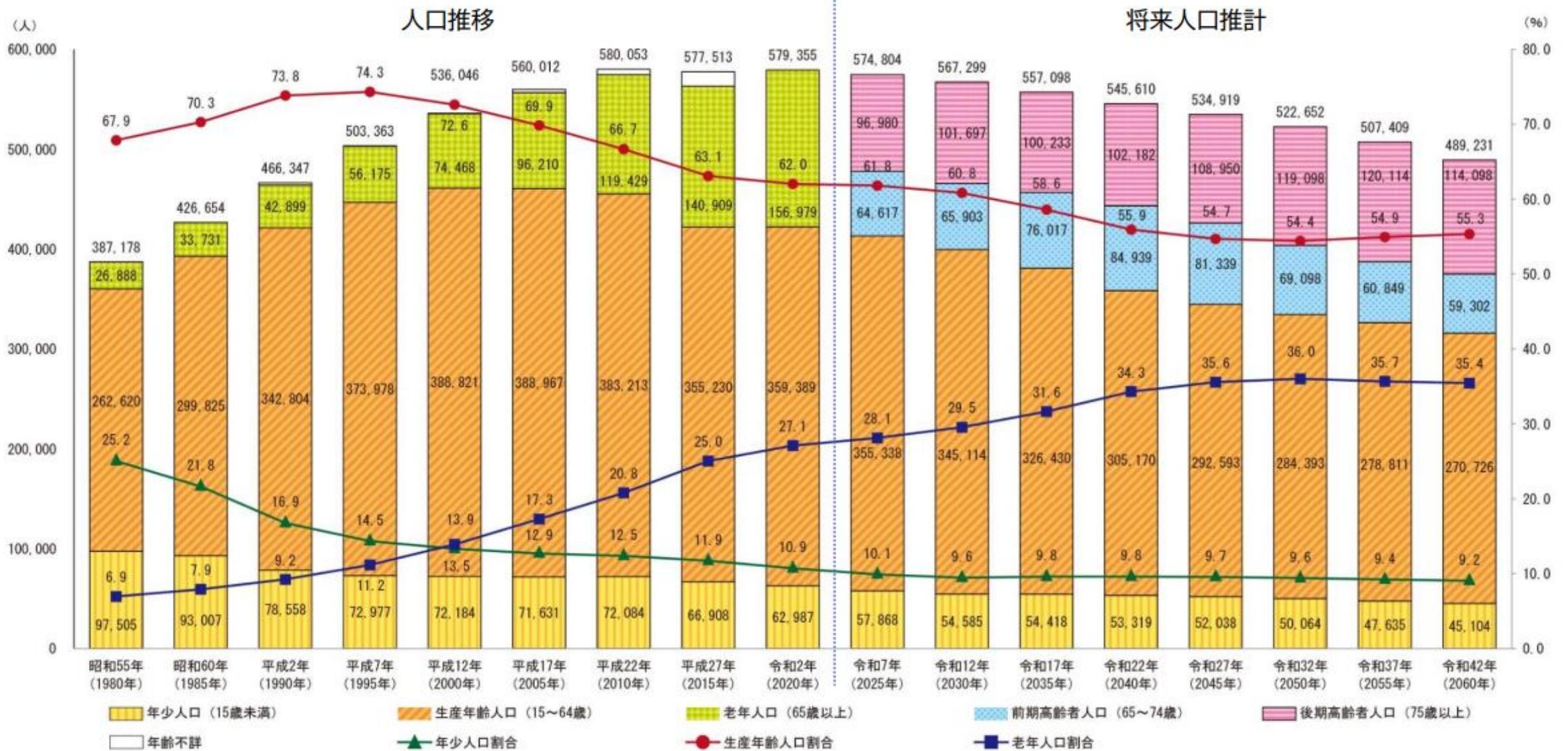


市域変遷の時期	市域変遷の経緯
大正6年(1917年)9月1日	市制施行。総人口 42,043人、世帯数 7,126世帯、総面積 7.3 km <sup>2</sup>
昭和16年(1941年)10月1日	小宮町を編入。総人口 79,768人、総面積 19.88 km <sup>2</sup>
昭和30年(1955年)4月1日	横山村、元八王子村、恩方村、川口村、加住村、由井村を編入。総人口 132,796人、総面積 139.60 km <sup>2</sup>
昭和34年(1959年)4月1日	浅川町を編入。総人口 152,226人、総面積 166.06 km <sup>2</sup>
昭和39年(1964年)8月1日	由木村を編入。総人口 193,346人、総面積 188.19 km <sup>2</sup>
平成27年(2015年)3月6日	面積改定(国土地理院による精査の結果)により総面積 186.38 km <sup>2</sup>

## 市の概要

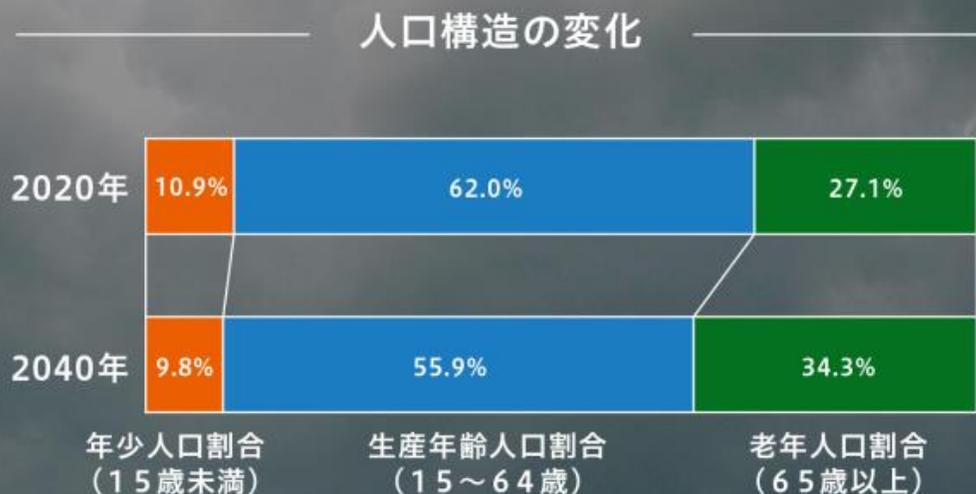
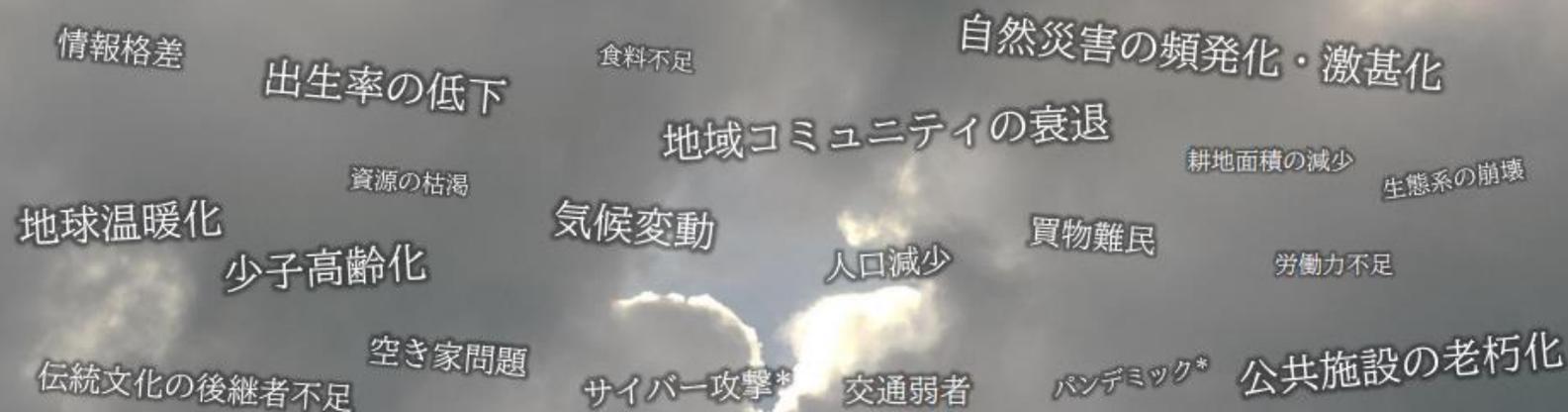
- 位置  
東京都心から西へ約40 km、  
新宿から電車で約40分の距離
- 面積  
186.38 km<sup>2</sup>  
都内では、奥多摩町に次ぐ2番目の大きさ
- 人口  
579,355人(令和2年国勢調査結果)
- 市の木・花・鳥



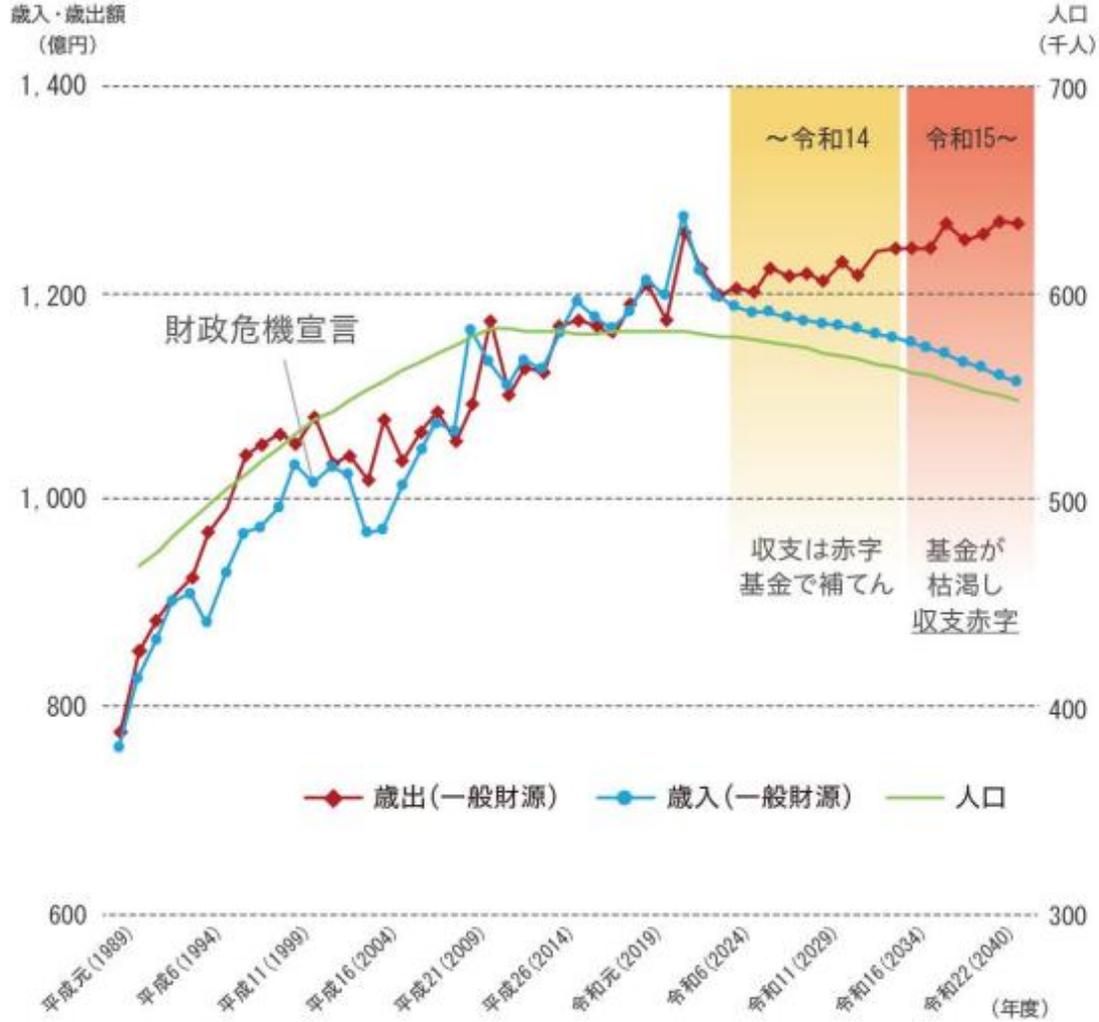


2040年を展望すると、厳しい社会環境の変化が見込まれ、  
多くの課題が待ち受けています。

社会環境の変化や各分野の課題は、別冊（附属資料）に記載しています。



## 人口推計に基づく財政見通し（一般財源ベース）



実績

推計

## 基金・現金及び収支の内訳



実績

推計

# 「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 未来を拓く原動力

「八王子ビジョン2022」

2つの  
大きな柱

「人とひととの  
支えあい、つながり」

市民・行政の互いの  
役割と責任ある行動  
による「協働」

継承

「八王子未来デザイン2040」

発展的に捉えた  
「地域自治」「共創」

直面している  
地域課題、社会  
課題の解決には  
欠かせないもの

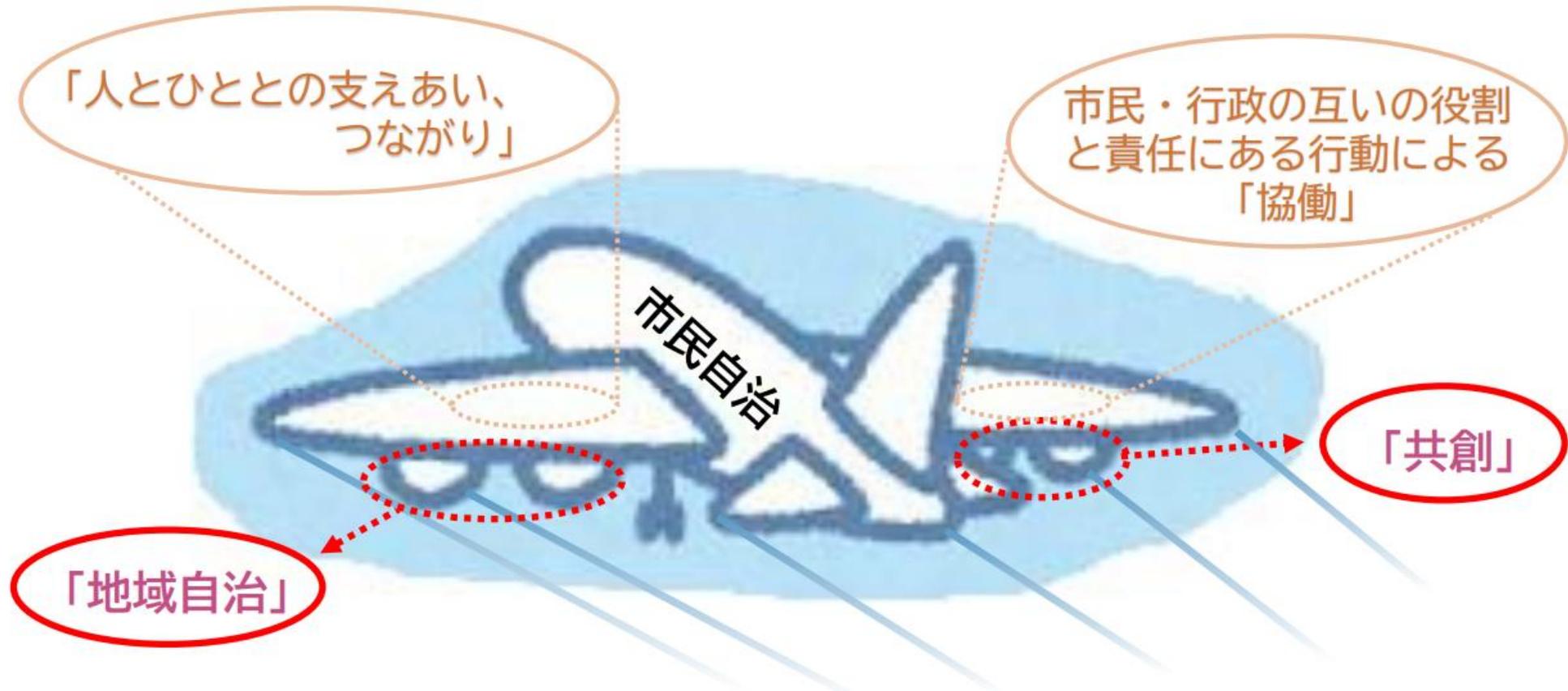


Point!

本市が多様な主体と一丸となり、  
チャレンジしていく決意の証として掲げる。

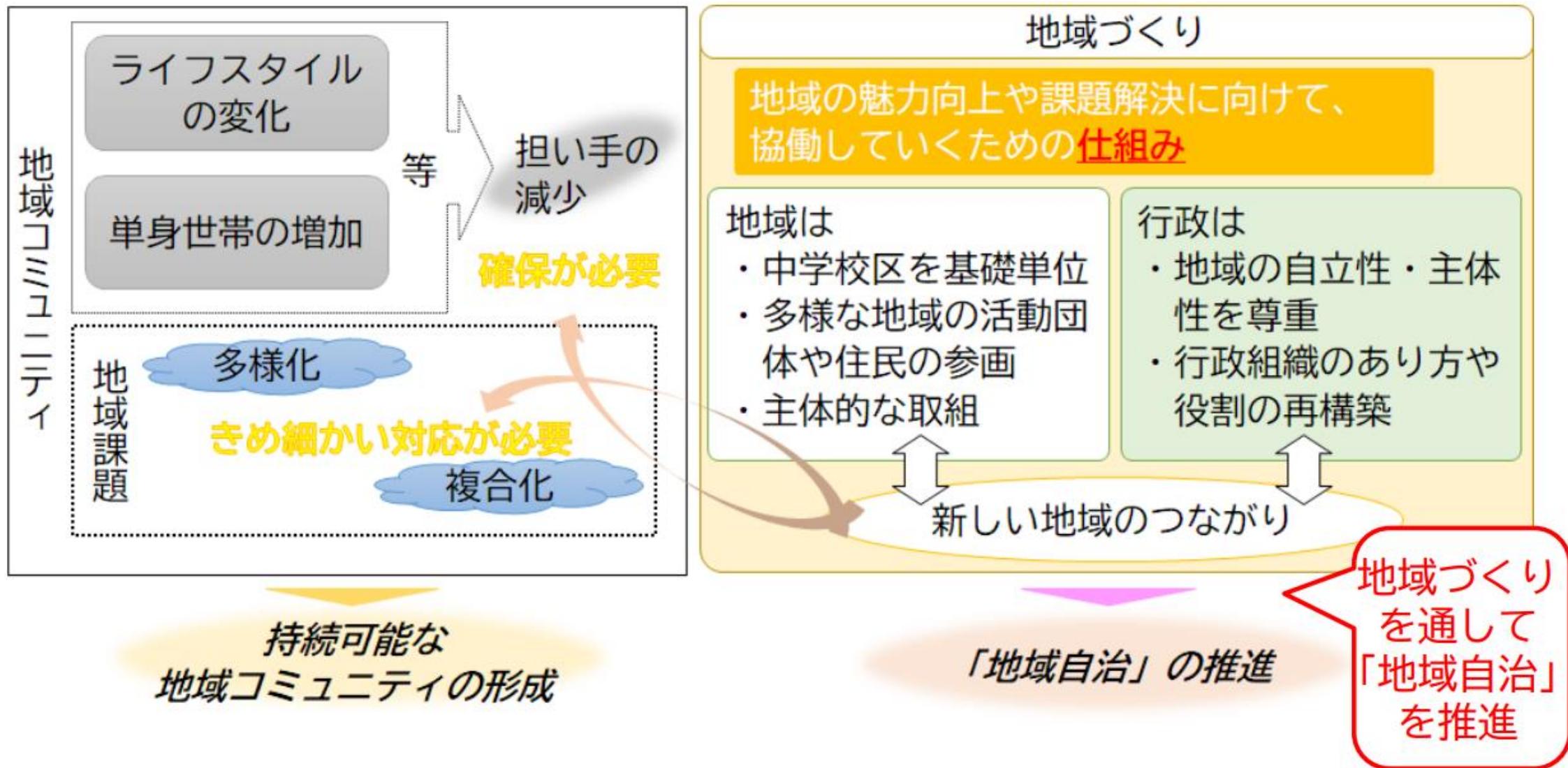
# 「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 未来を拓く原動力



# 「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

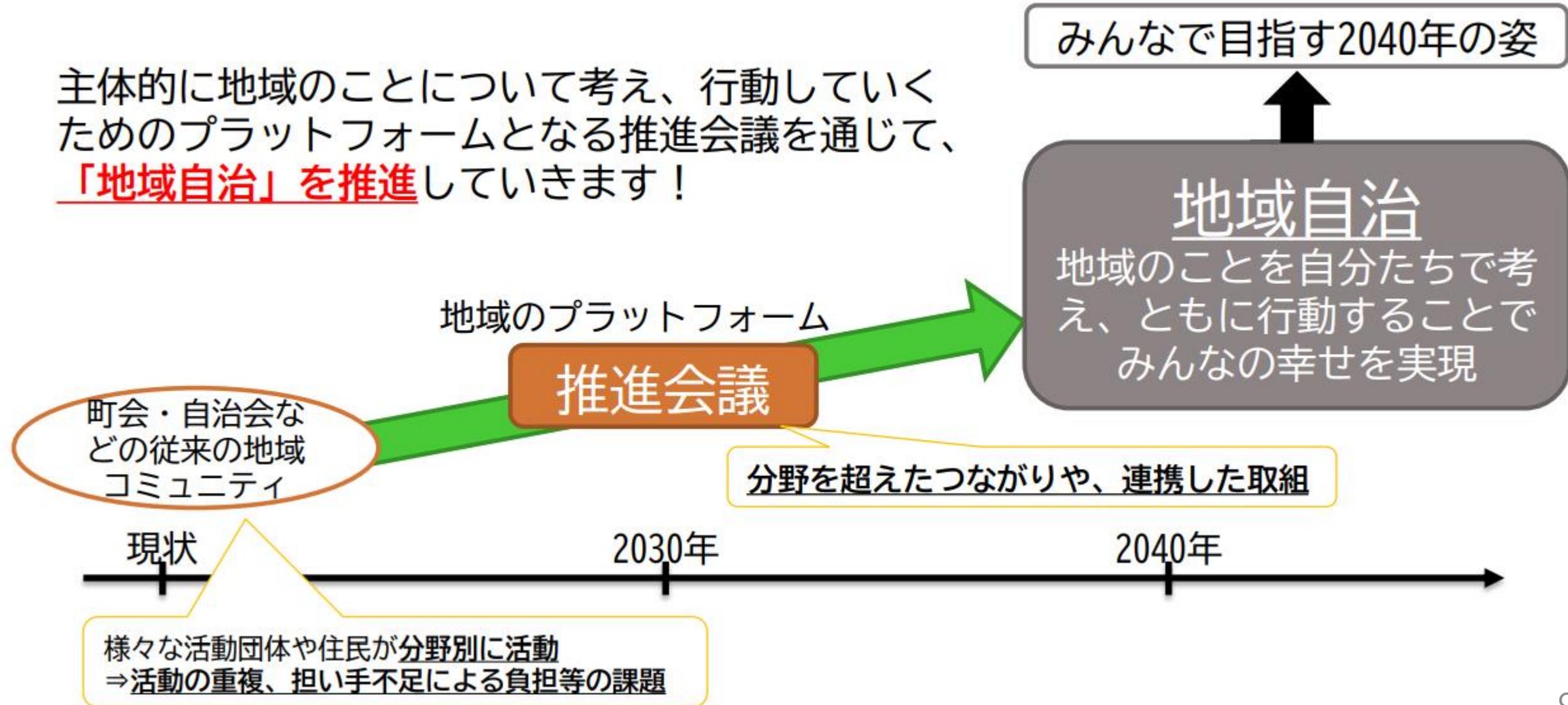
## 「地域自治」



# 「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 「地域自治」と「地域づくり」

主体的に地域のことについて考え、行動していくためのプラットフォームとなる推進会議を通じて、**「地域自治」を推進**していきます！



# 「八王子未来デザイン2040」 (令和5年(2023年)3月策定)

- 「地域づくり」の未来像

## 地域にとっての未来像

多様なつながりをもとに安心して暮らせる地域社会

地域の自立性・主体性を発揮

将来にわたり暮らしを支える「新しい地域のつながり」



中学校区単位に設置を進めている  
**推進会議を母体実践**

## 行政にとっての未来像

地域に対する支援体制の確立

圏域や中学校区単位での多様な  
施策・事業の展開

役割とニーズを踏まえた「地域  
公共サービス」の実施



**市役所(行政)の役割や体制を見直し**  
ながら、地域にとっての未来像を実現

# 地域づくりのステップ

1

## 地域の プラットフォーム 構築

- 地域づくり推進会議の設置
- 地域の居場所の検討・整備
- 庁内体制の構築
- 地域と行政のつなぎ役の検討

2

## 着実な ステップアップ

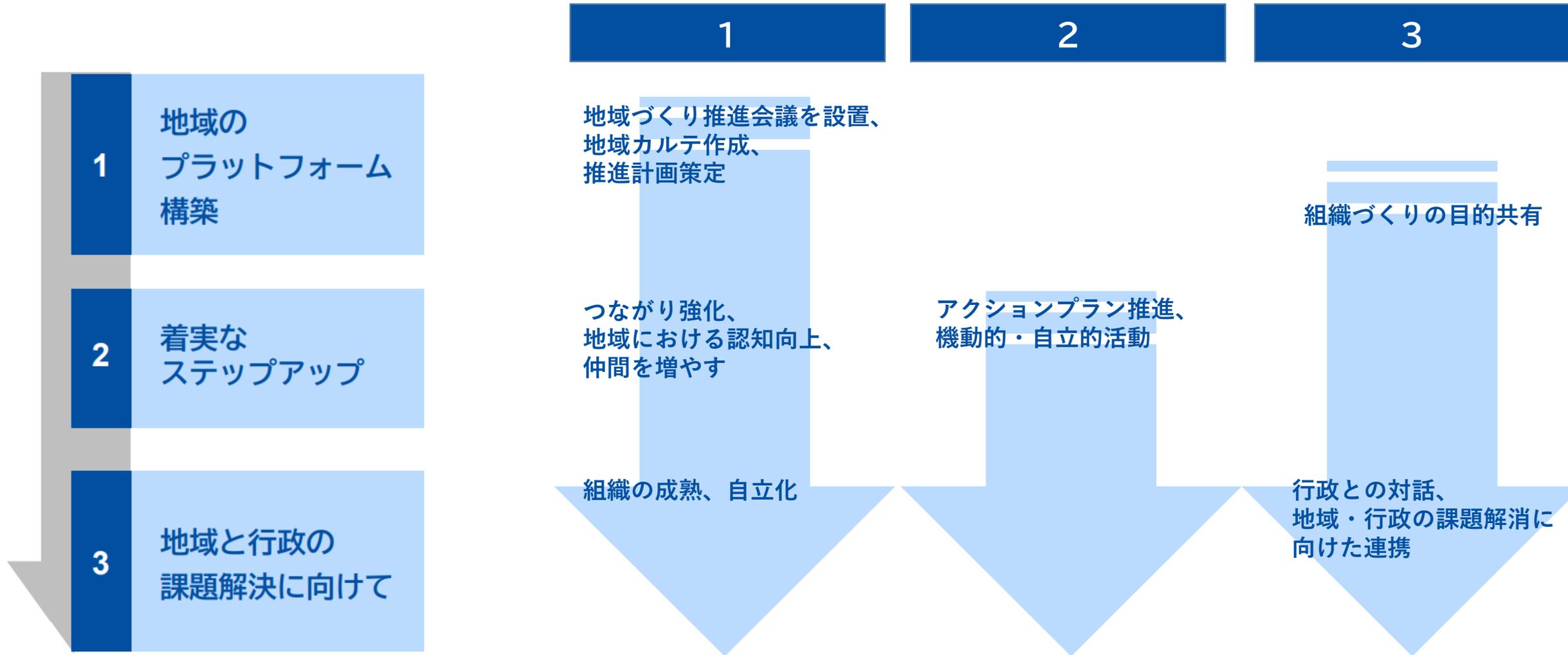
- 各地域の実情に応じた地域づくりの展開
- 財源確保に関する支援制度の検討
- 地域公共サービスについての検討

3

## 地域と行政の 課題解決に向けて

- 地域と行政の役割分担の検証・見直し
- 圏域や中学校区単位での施策展開

# 各ステップのイメージに合わせた推進会議の到達点・進め方



## R5年度（2023年度）のモデル地区（川口・長房）での検討

- これまで「やりたいこと」「できること」に取り組んできていただいたことの経験を活かし、「地域自治」※をキーワードに、川口・長房中学校区版の地域自治モデルを一緒に考えていく

### ※「地域自治」

「地域自治」＝『地域のことを自分たちで考え、ともに行動することでみんなの幸せを実現していくこと』

『「地域づくり」を通して（略）「地域自治」を推進し、地域と行政がともに未来へ向かって歩んでいきます』

（『八王子未来デザイン2040』P38 未来を拓く原動力（1）地域自治 より抜粋）

- 市の「地域づくりモデル地区」として「地域自治」の一つのモデルを構築していただき、行政側の制度構築の検討材料をいただく。

# R5年度（2023年度）のモデル地区（川口・長房）での検討

## ・地域づくり推進計画を通じたプラットフォーム強化・行政との連携

- ・アクションプランの進捗把握
- ・アクションプラン推進を通じたプラットフォーム強化（アンケート等による定量化）
- ・現在の行政・地域課題（公共施設マネジメント等）の検討連携

## ・地域自治モデルの構築

- ・～令和6年3月頃までを目途に検討する
- ・各回30～60分程度、川口・長房中学校区版「地域自治モデル」を検討する
- ・市側で用意した検討ワークをもとに、議論する

### 「地域自治」のための検討・整理事項の例

「何をする？」 「どういう組織？」

「代表者は？」 「参加者は？」 「予算は？」 「事務は誰が？」

「備品は？」 「場所は？」 「誰が参加？」 「会計監事は？」

「会計期間は？」 「市との関りは？」